美和神社

昭和2年頃の鳥居

昭和2年頃の拝殿

現在の拝殿

北東に立つ庚申塚

三輪地域のシンボル的な神社。創建は不詳で、古くは「三和神社」と称されていたが、安永年間（1772年～）以降「美和神社」と改称された。主祭神は大物主神。現在の社殿は寛政5年（1793年）に建立されたもの。
鳥居は「三輪型鳥居」と呼ばれる左右に小さな鳥居が付く「三つ鳥居」で、この形は全国的にも珍しいものであるといわれている。境内には、中風の神様として建てられた「青麻神社」や「境内百末社の石祠群」などがある。神社南を北国街道が東山道と重なって通っていたといわれている。

祭事として、春（4月27日）と秋（9月26日、27日）に例大祭が行われるが、特に秋の例大祭では境内が多くの屋台で埋め尽くされ、大変な賑わいとなる。
また、地元の担ぎ手による2基の神輿が地元を巡行し、境内への宮入はお祭り最大の見せ場となって大きな盛り上がりを見せる。

三輪型鳥居

美和神社の鳥居は特に「三輪型鳥居」と呼ばれ、奈良県桜井市の大神神社を模した左右に小さな鳥居がつく「三つ鳥居」で、この形は全国的にも珍しいものであるといわれている。

石造狛犬像

鳥居を入ってすぐのところにあり、二基がそれぞれ高い石垣と台石の上で向かい合っている。昭和3年に献じられたもの。

青麻神社

中風の神様として祀られている。石祠で覆屋も作られ、鳥居も立てられ、青麻講も作られて春秋の祭事も行われている。

文教地区三輪

長野女子短期大学

長野女子高等学校

三輪小学校

長野ろう学校

三輪地区には多くの学校が立地しているが、特に2018年（平成30年）4月に長野県立大学が開学したことにより、保育園・幼稚園から大学までそろった教育環境豊かな町となっている。
三輪地区では、こうした地域の特性を「文教地区三輪」と称して、地域と学校の連携によるまちの活性化を目指して様々な取り組みが行われている。

長野女子高校による情報誌「みわたりあん」

小学生を対象とした「夏休み！三輪こども学校」

地区の各学校が様々な活動を発表しあう「まちづくりのつどい」

雀塚

明治維新前後に宇木真行寺にあった寺子屋の塾長として活躍し、明治6年圓通寺に洗心学校（現在の三輪小学校）を開校する際にも、多くの関係者とともに情熱をもって尽力した金子弥平太氏を顕彰して建立されたもの。当時からこの地が文教地区としての気風があったともいえる。

学舎がそろう文教地区エリア

三輪の10区

地名の由来は？

【横山区】
横山の地名は、善光寺の東にある丘陵をかつては横山と呼んでいたことに由来する。その横山には中世に横山城が築かれていて、その城下にあるムラも横山と呼ぶようになったと考えられる。

【相ノ木西区・相ノ木東区】
「相ノ木」の地名は、現在の長野女子短期大学・同高等学校の地に、戦国時代、武田氏の家臣であった相木市兵衛の居館があったと伝えられていることに由来するのではないかとする説がある。
北国街道が開かれた1610年頃から街道沿いに次第に村人が住み着いて枝村を作り、さらに大きくなって西組と東組の二つの生活共同体に分かれた。

【上宇木区・下宇木区】
浅川扇状地上にある両区の宇遠（迹）神社の社号が地名を物語っている。宇は広大、木（迹）は丘陵の意で、広大な丘陵、つまり宇木とは浅川扇状地の大地のことである。

【逸目区】
条里制による農地を碁盤目に区切る地割が行われたが、逸目地区では浅川の氾濫などにより地割ができなかった。目に逸りかえったしまったことから逸目となったと考えられる。

【泉町区】
もともと逸目区であったが、昭和30年4月逸目区から分かれて泉町となった。町名のおこりは、隣区桐原に七清水といわれる湧水があり、その一つに牛爪清水といわれる泉が近くにあったことから泉町と名づけられた。

【本郷区】
三諸前という古字名が残されていることなどから、三輪地区の中心的な場所であったのが地名になったと考えられる。

【四ツ石区】
善光寺仁王門は中道（善光寺東参道）上にあったときに、その沓石が4個残っていたところから、四ツ石と呼称されるようになった。

【城東区】
城東という町名は、城山の東にあって朝夕ごこの山を望見できる理想の町にふさわしい町名であるということからつけられた。

制作（お問い合わせ）
三輪地区住民自治協議会
住所：〒380-0803 長野県長野市三輪４－15－１
電話：026-225-9567
FAX：026-225-9647
https://www.miwajichikyo.com
監修・イラスト／相原文哉

三輪の歴史

- 「三輪」という地名は古くから見られ、美和・三和とも書いた。古代に三輪氏が住んでいたことが地名の由来という。
- 864年、『日本三代実録』に「信濃国水内郡三和」の名が見える。
- 鎌倉時代、「三和条」の名が見える。条里制的地割りが形作られる。
- 1889年（明治22年）4月1日、上水内郡三輪村、同郡中越村・上松村、宇木村・古野村を編入。三輪村のうち荒屋区は古牧村に分ける。
- 1923年（大正12年）7月1日三輪村が長野市に編入。
- 1971年（昭和46年）10月1日住居表示実施。大字三輪の大部分と大字宇木、大字古野の逸目地区が三輪一から十丁目となる。

明治26年新築時の三輪小学校校舎

昭和2年頃の長野電鉄。美和神社と三輪小学校の向かいには畑が広がっている

- 三輪地区は、飯綱山の東山麓から流れ出る浅川によってできた扇状地上にあり、昭和の終わりごろまでは一帯に「三輪たんぼ」と呼ばれる水田地帯が広がっていたが、徐々に宅地化が進み、現在では市街地に近接した住宅地となっている。主要道路沿いには商業施設も多い。

現在のSBC通り

鐘鋳川
三輪地区を横断する鐘鋳川は、古く8世紀末から9世紀末にかけて裾花川から取水する用水堰として開削されたといわれている。
川は、旧市街地の中央をほぼ暗渠で横断し、淀ケ橋あたりから地上に出て三輪地区に入り、横山、城東、本郷、逸目の各区を何度も地下に潜りながらも姿を現しては吉田方面に流れている。
かつては地域の水田を中心とした稲作経営に果たした役割が大きかったが、昭和30年代に入り農地の宅地転用が進むと農業用水としての役割は減少し、排水機能や防火機能としての役割が増大している。

昭和34年頃

現在の様子

北国街道と三輪
江戸時代、幕府によって整備された脇街道で、善光寺への参拝や佐渡の金を江戸に運ぶ道として、五街道に次ぐ重要な役割を果たした。
また、参勤交代で加賀の前田藩をはじめとする北陸の諸大名の行列が通った。
三輪地区は北国街道のルート上にあり、横山・相ノ木・宇木・逸目に至る相ノ木通り（県道長野豊野線）は今も道幅が狭く、当時の街道の雰囲気が色濃く残っている。

猫面瓦など、今も随所に面影を残す

現在の相ノ木通り（旧北国街道）
道路向かって右側の住居は、隣家とともに「令和元年度長野市景観賞」を受賞

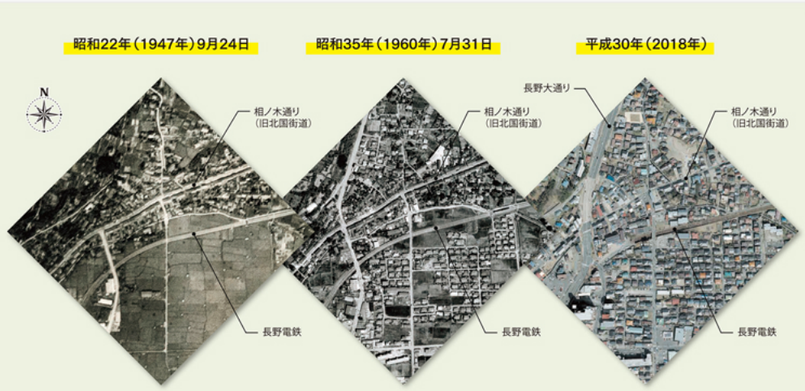
三輪たんぼ

- 「三輪たんぼ」は、現在の旧長野市街地に当たる地域の条里プランの一環として、8世紀末から9世紀にかけて開かれたものといわれている。
- 三輪地区については、昭和の終わりごろまで稲作が盛んで、一帯が「三輪たんぼ」と呼ばれる一面の水田地帯が広がっていた。
- その後宅地化が急速に進んで、もはやかつての田園風景をみることができなくなっている。（現在は、一枚だけが三輪10丁目に残っている。）

昭和27年頃の田植えの様子
左奥に太子堂が見える

三輪公民館付近から逸目側に向かって撮られた写真（戦時中）

現在の様子



横山地域の航空写真。相ノ木通りより南の横山と城東には田んぼが広がる。

田んぼの数が減り、住宅が半分以上を占めている。

長野大通りが開通し、長野電鉄が地下に潜った。田園風景はみられなくなった。

長野女子高校の活動

令和元年から長野女子高校のインターアクトクラブにおいて、「三輪たんぼ」を残したいとの思いから、学校敷地内に「三輪たんぼ」と名付けた小さな水田を開き、稲作に取り組んでいる。育てた米はイベント等で活用し、名前をアピールしていく。

四ツ石の由来

四ツ石区の「四ツ石」の地名の由来は、善光寺仁王門がかつて中道（善光寺東参道）にあり、その礎石（沓石）が4個残っていたことから四ツ石と呼ばれるようになったといわれている。
4個の沓石があったといわれる場所は、現在のデリシア三輪店の北側T字路付近であるという。

三輪甚句

善光寺のお膝もとである三輪地区には、古くから庶民の娯楽文化の一つとして、鎮守の森や寺院の境内で、お盆には歌を唄い踊りを踊る習慣があった。庶民が集う盆踊りの中から生まれたのが三輪甚句であるといわれている。
三輪甚句の創作起源は定かではないが、江戸時代から唄い踊り継がれてきたものであることは、文献等からも確かである。
近年その存続が危ぶまれた時期もあったが、2000年（平成12年）の長野市制百周年記念事業の三輪地区事業として、先人が残してくれた文化遺産の掘り起こし・復活に取り組んだ。
現在は、「三輪甚句保存会」が作られ、三輪甚句の保存・普及に地区をあげて取り組んでいる。

全国の「みわ」

全国には「みわ」の仲間がこんなにありますよ!!

全国に「みわ」と呼ぶ地名は数多く、地名の中に「みわ」を含む地名も数えると60か所程にのぼる。「三輪」のほかに「美和」や「三和」の文字をあてているものが多いが、ほぼ同数くらいとなっている。
多い県では3～4か所あるが、全くない県（近県では富山県、石川県、新潟県、山梨県など）も多い。
三輪素麺で有名な奈良県桜井市の「三輪」にはわが国最古ともいわれている「大神神社」（全国の三輪（美和）神社のルーツといわれる。）があり、また岐阜市の「三輪宮前」のように神社と関係のある地名例があることは興味深い。

1 「みわ」という地名【23か所】

①「三輪」9か所
栃木県那須郡那珂川町／長野県長野市／岐阜県揖斐郡揖斐川町／岐阜県岐阜市／愛知県北設楽郡東栄町／奈良県桜井市／兵庫県三田市／岡山県総社市／山口県光市

②「美和」7か所
北海道三笠市／北海道檜山郡厚沢部町／北海道斜里郡小清水町／北海道虻田郡豊浦町／鳥取県鳥取市／岡山県倉敷市／大分県豊後高田市

③「三和」6か所
北海道沙流郡日高町／青森県弘前市／山形県鶴岡市／茨城県行方市／千葉県印旛郡栄町／静岡県焼津市／

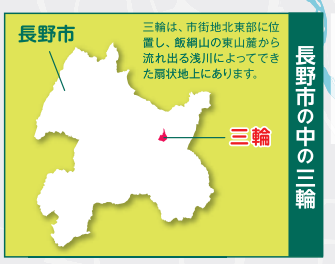
④「見和」1か所
茨城県水戸市

2 「みわ」から始まり「みわ」以外の文字が付いた地名【40か所前後】

「三和琴平」（高知県南国市）／「三和団地」（大分県日田市）／
「美和町」（岐阜県大垣市など）／
「三和町」（兵庫県小野市など）／
「三輪町」（奈良県磯城郡田原本町など）／
「美和通」（愛知県豊川市）／「三輪宮前」（岐阜県岐阜市）　など

奈良県 大神神社

てくてく まち歩き 三輪 ガイドマップ

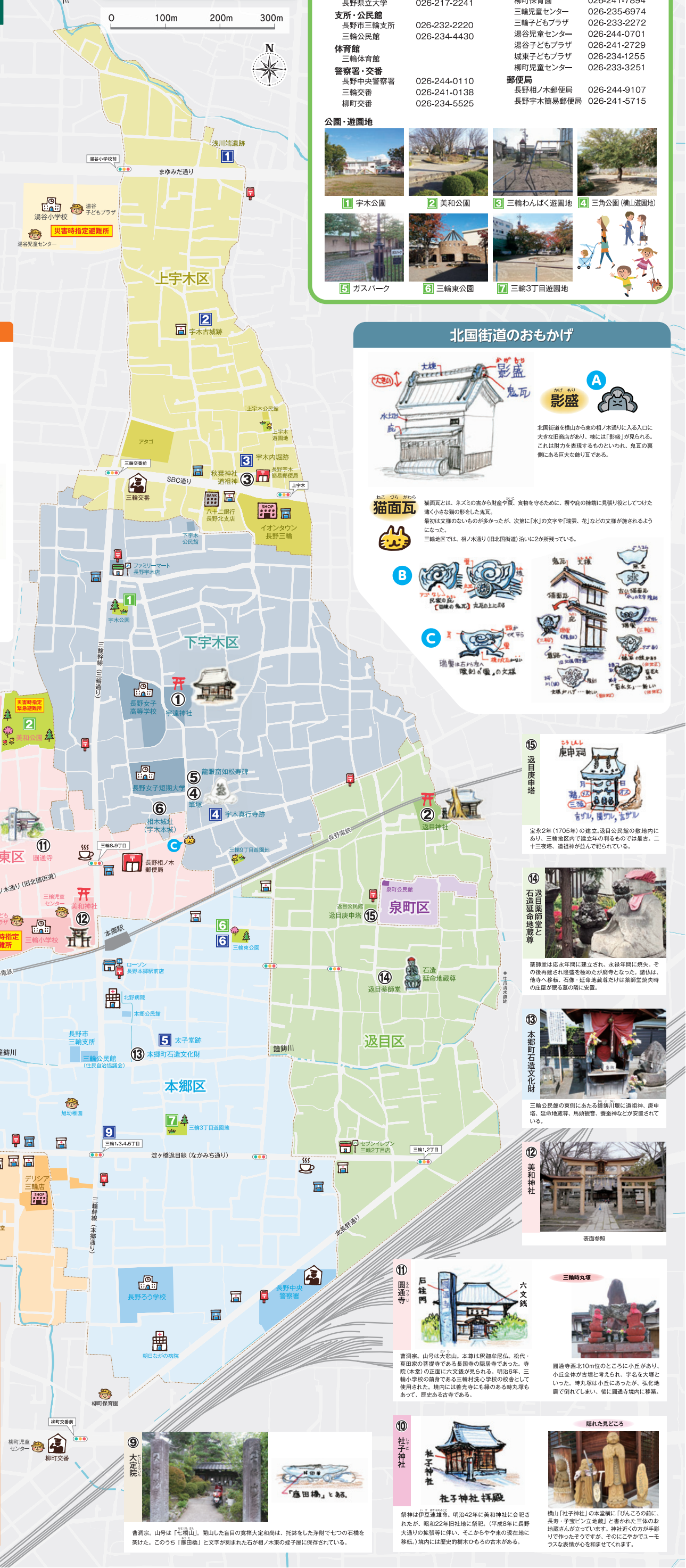


三輪は、市街地北東部に位置し、飯綱山の東山麓から流れ出る浅川によってできた扇状地上にあります。

長野市の中の三輪

三輪の歴史など、詳細はこちらもご覧ください。

https://www.miwajichikyo.com



① 宇達（宇木）神社

祭神は宇達神。大昔この地を開拓した泥土立神（産土神）が跡って宇達の神になったといわれている。
相殿として建御名方神・八坂斗売神を祀る。
古記録に、上・下宇木は独立した神社を持っていたが文化10年現在地に合祀とある。

② 退目神社

祭神は誉田別命。古くは退目八幡宮と称したが、明治 6 年退目神社に改称。境内に養蚕社・天満社がある。神社前の旧北国街道上に架かっていた駒爪橋が道路脇に祀られている。

駒爪橋
神社前の道路の南側にある長さ1.5m、高さ0.7mの横長の石。馬のひづめの跡がある。

縁結びの欅
拝殿の前にある大欅で、2本の大木が上部で交差し、くっついている。

石造・蚕神（祠）
社地の東横にある石祠。破風には蚕の繭と蛾、正面には二頭の馬の彫刻がある。中国の古書「搜神記」によると、娘と馬の恋愛悲話の結果、「蚕」のルーツとなり、その馬が一対となって表現されている。

③ 秋葉神社 道祖神

秋葉社に賀突神、道祖社に八祖彦神、八祖姫神を祀っている。宇達神社に合祀。

④ 筆塚

明治維新前後に真行寺寺子屋塾長として活躍し、明治6年、圓通寺に洗心学校（現在の三輪小学校）を開校する際も尽力した金子弥平太氏を顕彰して建立されたもの。

⑤ 籠眼窟如松寿碑

華道などの指導に生涯尽力した池田作太郎（如松）氏を顕彰して建立されたもの。

⑥ 相木城址（宇木本城）

長野女子高南東の一角に石垣と土塁の一部が残り、濠跡も一部残っている。土塁の頂には、くぬぎの大木が繁り、八幡社、稲荷社の石祠が祀られている。城主は武田氏の臣、相木市兵衛であるとする説と、戦国時代の在地豪族、宇岐（宇木）氏であるとする説がある。

⑦ 飯縄天神合殿神社

祭神は保食命、菅原道真公。明治42年美和神社に合祀。昭和22年分座のうえ現在地に建立。

⑧ 時丸寺

曹洞宗。山号は三輪山。本尊は釈迦牟尼仏。その昔三輪時丸という男が善光寺如来の力で再生し、善光寺東の門・伊勢社付近で一寺を建てた。その後三輪の現在地に寺を建立し、観音寺と号した。明治 4 年時丸寺と改称。善光寺信仰に関係する寺。参道（入口近く）の東に国東塔に似た石塔があり目をひく。

史跡はないけれど・・・

1 浅川端遺跡

北部幹線工事前の発掘調査で縄文時代から平安時代の住居跡が見つかり、馬形帯鉤（馬の形をしたベルトのバックル）が出土。朝鮮半島との交流を物語る貴重な発見となった。

2 宇木古城跡

俗に「城の山」と呼ばれ、面積は400㎡位であった。『科野佐々礼石』によれば信濃守小笠原長秀の重臣、宇木小太郎の居館跡とあり、また『諏訪護符礼之古書』には諏訪上社の頭役、宇岐左京之亮諏継の城址とある。

3 宇木内堀跡

かつては約40㎡の内堀であった。古くから上宇木の農家がこの堀を利用して、種籾や作物の種子などの催芽に利用していたので、「芽だしの池」ともいい、村人は俗に「ダシの堀」と呼んでいた。

4 宇木真行寺跡

文化6年（1809年）の「切支丹宗門改帳」に宇木真行寺とある。長野女子高校南の相ノ木通りに面した一帯にあった。この地には古くから寺子屋があった。

5 太子堂跡

現在はマンションとなっているが、聖徳太子を信仰する太子堂があった。そこには樹齢500年ともいわれた欅の巨木があり、鐘鋳川用水の「水引き」に来た人たちの休憩所としても広く利用されていた。

三輪暮らし情報

学　校	
三輪小学校	026-234-1251
城東小学校	026-234-1226
湯谷小学校	026-241-2723
長野ろう学校	026-241-5320
長野女子高等学校	026-241-6800
長野女子短期大学	026-241-0308
長野県立大学	026-217-2241
支所・公民館	
長野市三輪支所	026-232-2220
三輪公民館	026-234-4430
体育館	
三輪体育館	
警察署・交番	
長野中央警察署	026-244-0110
三輪交番	026-241-0138
柳町交番	026-234-5525
子育て施設	
三輪保育園	026-232-7213
りんどう保育園	026-232-1773
りんどう保育園 子育て支援センター	026-252-7024
済生会長野保育園	026-232-6227
旭幼稚園	026-232-4363
柳町保育園	026-241-7894
三輪児童センター	026-235-6974
三輪子どもプラザ	026-233-2272
湯谷児童センター	026-244-0701
湯谷子どもプラザ	026-241-2729
城東子どもプラザ	026-234-1255
柳町児童センター	026-233-3251
郵便局	
長野相ノ木郵便局	026-244-9107
長野宇木簡易郵便局	026-241-5715

公園・遊園地

1 宇木公園

2 美和公園

3 三輪わんぱく遊園地

4 三角公園（横山遊園地）

5 ガスパーク

6 三輪東公園

7 三輪3丁目遊園地

北国街道のおもかげ

A 影盛

北国街道を横山から東の相ノ木通りに入る入口に大きな旧商店があり、棟には「影盛」が見られる。これは財力を表現するものといわれ、鬼瓦の裏側にある巨大な飾り瓦である。

猫面瓦

猫面瓦とは、ネズミの害から財産や蚕、食物を守るために、塀や庇の棟端に見張り役としてつけた薄く小さな猫の形をした鬼瓦。
最初は文様のないものが多かったが、次第に「水」の文字や「瑞雲、花」などの文様が施されるようになった。
三輪地区では、相ノ木通り（旧北国街道）沿いに2か所残っている。

B

C

鬼瓦
文様
猫面瓦
庇
瑞雲
文様が残っている
文様が残っている
文様が残っている